

平成25年度岡山県のハンセン病問題対策事業実施状況

全 体 統 括

●岡山県ハンセン病問題対策協議会

第1回

平成25年8月26日開催

<議題>

- 1 学習用小冊子の改訂について
- 2 DVD制作について
- 3 平成25年度事業実施状況
- 4 その他

第2回

平成26年3月20日開催

<議題>

- 1 世界遺産登録に関する報告
- 2 普及啓発DVDの完成について
- 3 事業実施状況及び計画について
- 4 その他

個 別 課 題 の 処 理

1 偏見・差別解消のための啓発事業のきめ細やかな実施

(1)単なるパンフレットの配布等でなく、啓発資材を活用した語り部等による伝承、対話集会の実施等きめ細やかな事業実施を工夫すること

●ハンセン病問題に関する講演会の開催 入所者による語り部講演会

希望校 13校、うち実施校 10校 1,173人

1	10月18日	美作市立大原中学校	2年生・教員・保護者	68人	担当：邑久光明園
2	10月28日	津山市立西小中学校	2年生・教員	52人	担当：長島愛生園
3	11月14日	和気町立佐伯中学校	1年生・教員	34人	担当：長島愛生園
4	11月16日	倉敷市立玉島北中学校	1年生・教員・保護者	267人	担当：邑久光明園
5	12月6日	高梁市立高梁中学校	2年生・教員・保護者	133人	担当：邑久光明園
6	1月27日	和気町立本庄小学校	1年生・教員	56人	担当：長島愛生園
7	2月7日	岡山市立豊小学校	5年生・教員	49人	担当：長島愛生園
8	2月13日	勝央町立勝間田小学校	6年生・教員	61人	担当：長島愛生園
9	2月18日	岡山市立京山中学校	1年生・教員・保護者	345人	担当：邑久光明園
10	2月27日	笠岡市立城見小学校	5・6年生・教員・保護者	108人	担当：長島愛生園

参加した生徒等の感想(主なもの)

- ・授業で勉強して県内に2つのハンセン病療養所があることや差別について知った。講演を聞いて、できないところを助け合い、人と人がつながって生き、人権を守ることが大切だと改めて思い学ぶことができました。(中2)
- ・差別などを考える前にハンセン病についてあまり深くふれていませんでした。しかし、今もずっと苦しんでおられる方があり、もっと知るべきだし子供だけでなく親も一緒に理解するため勉強して実際の今の状況を目にして耳にして考えたいと思いました。(保護者)

●地域交流事業

県民が実施する地域交流事業への補助 申請件数：15件(約1,200人)

実施した地域交流事業

小学校3校、中学校6校、ご当地グルメなどの4団体 講演会・訪問交流

●DVDの活用

随時 図書館等での視聴・貸出、語り部講演会等事前学習用に貸出

- ・療養所訪問研修におけるバスレク、小中学校等への貸出11件
- ・パネル展期間中の講演会での上映

(2)ハンセン病に関する正しい情報提供を行うこと

●ホームページでの啓発 「みんなで描くひとつの道」 www.hansen-okayama.jp

通年 公開開始：H14.6.24

- ・アクセス数、10,058件(H25.4.1～H26.3.10)

●リーフレット、小冊子の配布

随時 保健所・市町村等へ配布、長島愛生園歴史館・邑久光明園等での活用

問い合わせのあった公民館、市町村、小中学校等へ配付(3月現在、学習用小冊子旧版1,000部、新版5,700部[残り15,000部]、一般用リーフレット1,700部[残り4,000部]を配布)

●6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」関連事業

ハンセン病問題に関する普及啓発及びパネル展開催に係る各種広報

RSKラジオ「県民のみなさんへ」(6/7放送)

県政広報資料配信

パネル展及びハンセン病療養所入所者による講演会の開催

期間：平成25年6月21日(金)～7月5日(金)

場所：県庁1階県民室

内容：パネル12枚や関連書籍等の展示

講演：平成25年6月23日(日)13:30～15:30

講師：国立療養所邑久光明園 屋 猛 氏

演題：「邑久光明園の成り立ちと私の体験」

対象：一般県民、県職員、報道関係者

場所：岡山県立図書館 デジタル情報シアター

参加：約60名

●啓発パネル等の貸出

随時 希望に応じて貸出

- ・県立図書館郷土資料コーナーで展示
(6/22～7/15)
- ・小学校への貸出1件

○保健福祉部職員研修（保健福祉課）

保健・福祉行政に携わる職員が療養所を訪問して、その歴史と現状を学ぶとともに、入所者との交流を通じて人権意識を高めることにより、今後の行政施策に役立てる。

7月10日	長島愛生園	24名参加
8月6日	邑久光明園	19名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・今までのハンセン病に対する自分の理解が不十分であったことに気づかされた。
- ・入所者の方から直接お話を聞くことができ、ハンセン病に対する理解が深まった。職場や家族にもこの研修で学んだことを伝えたい。

○人権啓発研修（人権施策推進課）

県職員が療養所を訪問し、その歴史と現状を学ぶとともに、人権についての正しい理解と認識を深め、人権行政の担い手としての資質の向上に役立てる。

8月1日	長島愛生園	47名参加
------	-------	-------

参加した職員の感想(主なもの)

- ・身近なところに、これだけの人権問題があったのに不勉強だった。今後の業務にいかしていきたい。
- ・ハンセン病に限らず、いろいろな形で人権侵害が起きる可能性があることを自覚し、風評にまどわされず冷静でありたいと思う。

○人権研修(人権施策推進課)

平成25年度から、新たに主任級に昇任した職員を対象に、ハンセン病問題を研修科目に組み込んだ職員研修を実施した。

8月19日	自治研修所	35名参加
8月23日	自治研修所	30名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・正しく理解すること、正しいことを見極めていくことの重要性を再認識した。
- ・ハンセン病問題を通して、人権問題についてより深く考えていかなければならないと思った。

○パンフレット等の設置、配布（人権施策推進課）

随時 公民館・図書館等の公共施設に設置した人権情報コーナー(185か所)での情報提供

(3) 道徳副読本問題が提起した偏見・差別の無意識な助長に配慮し、学校教育の中の人権教育において取り上げること

○交流研修会の実施等（教育庁）

国立療養所の園長による講義、居室訪問、入所者の方による講話等を通して、ハンセン病問題についての正しい理解を図る研修を実施した。

- ・人権教育交流体験研修講座（10/1、10/8） 邑久光明園 参加者44人

<参加者の感想>

- ・入所者の方の体験を直接お伺いできたことで、ハンセン病問題について理解と認識を深めることができた。
- ・人権問題について正しく理解し、誰もが堂々と生きていくことができる社会を確立していくことが必要だと感じた。生徒と共に訪問することを計画したい。
- ・教師として、次の世代を担う子どもたちにハンセン病問題を伝えていく責任を感じた。

- 各種研修会における「第2次岡山県人権教育推進プラン」等の配付・説明（教育庁）
市町村教育長・人権教育担当者、各学校の校長・人権教育担当者、初任者等を対象にした研修会で、資料を配付し、説明を行った。

<配付資料・説明の内容>

- ・「第2次岡山県人権教育推進プラン」について
- ・「ハンセン病に関する県民意識調査」結果概要について
- ・「岡山県ハンセン病問題対策協議会提言」について
- ・ハンセン病学習の充実に向けて（県の事業、啓発HP、小冊子「ハンセン病のこと正しく知っていますか」等の紹介）
- ・「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」の施行、長島愛生園・邑久光明園の将来構想の公表、「カフェin長島愛生園」など、ハンセン病問題をめぐる動きについて

- 人権教育指導資料の活用の促進等（教育庁）

授業等で活用できる指導資料（「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」「ワークショップ（下）」等）や視聴覚教材等について各種研修会で紹介し、活用を促した。

<平成25年度整備作品>

- ・作品名：「あなたの偏見、わたしの差別～人権に気づく旅～」
- ・内容等：長島愛生園、邑久光明園を訪れ、入所者の方や資料館の解説員の方と対話し、ハンセン病問題の歴史と現状を学ぶ。（DVD30分）

（注）「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」
「あなたの偏見、わたしの差別～人権に気づく旅～」は、人権教育課HPでも紹介している。

(4) 高齢者等への理解を深めるために社会教育活動として生涯学習(出前講座)にも取り組むなど人権意識涵養をさらに推進すること

- DVD (改訂版) の販売
通年 制作委託会社に販売委託
「ハンセン病を正しく理解するために」 3,000円
ハンセン病全般がわかる啓発DVD 29分
語り部証言集12名:157分
「今、わたしたちができること」 1,000円
小・中・高校生向けハンセン病啓発DVD 14分

販売状況 H25年度(3月現在)
・ハンセン病を正しく理解するために 49枚
・今、わたしたちができること 13枚
※愛生園歴史館・国立ハンセン病資料館でも販売

- 交流活動を通じた指導者研修の実施 (人権施策推進課・教育庁)
啓発・教育活動を一層推進するための深い知識と実践力を持った指導者を養成する講座において、邑久光明園での現地研修及び交流学习を行った。

10月7日実施 25名参加

<参加者の感想>

- ・入所者の方から直接話を聞く機会は貴重な体験であり、これ以上差別や偏見に苦しむことのない社会に早くなるようにとの思いを強くした。
- ・入所者の方の話を聞いて、自分自身何ができるか考え、「積極的に交流する企画・行事を提案して実行していきたい」と思った。

(5) 若い世代に対する啓発は、ハンセン病の正しい知識についてストレートに伝えていくこと

各啓発活動の中で配慮

(6) 主要公立図書館にハンセン病関連文献コーナーを設置すること

- 県立図書館への設置 (教育庁生涯学習課)

通年 ハンセン病関連文献コーナーを設置

県内市町村立図書館にも、ハンセン病関連の蔵書あり

- 啓発パネル・関連図書の展示 (教育庁生涯学習課)

6月22日～7月15日 県立図書館2階 郷土資料コーナーにて
「学ぼうハンセン病問題」展示

- ・多くの方に興味深く見ていただいた。配布用の展示資料リストやパンフレットなどもよく手に取られていた。
- ・展示を見た利用者から、「コーナーをつくる企画は非常に価値があります。ぜひ継続してください。」「ハンセン病についてみんなにもっと勉強してもらいたい。」「明石海人歌集をまとめて読む良い機会を与えていただき、感謝です。」という感想をもらった。

2 福祉増進施策の実施

(1) 入所者を訪問し、県に対する要望などの意向調査を行うこと

- 保健福祉部と議会による合同訪問

7月5日、6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて、環境文化保健福祉委員長及び保健福祉部次長が長島愛生園及び邑久光明園を訪問

園長訪問、納骨堂への献花の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。将来構想や療養所の看護・介護の状況などを伺ったほか、間近に迫った夏祭り・花火の話をした。

- 入所者激励費の贈呈（ハンセン病療養所入所者に対するもののみ）

12月24日 木幡副知事、福祉政策企画監が長島愛生園及び邑久光明園を訪問

園長への挨拶の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。「長島の世界遺産をめざす準備会」の発足、療養所の将来構想（特別養護老人ホームや「人権の島」構想）の話や語り部講演会の活動についてお話を伺った。

(2) 社会復帰に当たり入所者の参考とするため、県民に対し、社会復帰受け入れ等に関する意識調査を行い、その結果を両園入所者に提示すること

- ハンセン病に関する県民意識調査結果の周知

通年 ホームページへの掲載

(3) 社会復帰支援員を設置し、社会復帰希望者からの相談に対応するとともに、当面、住宅、医療等の確保が求められている状況を受けて、継続的に入所者及び親族や関係市町村等との連絡調整等の支援を行うこと

- 社会復帰支援員による支援活動

平成23年度末をもって、活動終了

- 社会復帰推進事業

療養所全体としての社会復帰を推進するため、療養所を訪問して行う、交流活動への補助。平成24年度から新設。申請件数：4件（384人）

実施した社会復帰推進事業 小学校3校、中学校1校

(4)住宅の確保について、関係市町村とも十分連携しながら公営住宅の優先入居や民間住宅の入居斡旋等の支援を行うこと

○県営住宅の優先入居

随時 土木部住宅課において対応

実績なし

●住宅費の一部補助

随時 生活保護基準により支給 (例)岡山市37,000円/月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(5)医療の確保について、退所者に対する在宅医療の確保や療養所の協力医師、協力医療機関の確保、医療関係者の研修を目的として、療養所、入所者自治会と関係自治体、医療関係団体等との協議の場を設ける等の支援を行うこと

●個別案件ごとに対応

随時 関係自治体、医師会との協議

随時 サポートプログラム作成、研修

社会復帰希望者の要望を踏まえ、関係自治体や医療機関等と連絡調整

社会復帰者については、
健康推進課で随時対応
要望等、特になし

●医療費、介護保険利用料の補助

随時 自己負担上限(市民税非課税) ・医療費 35,400円/月
・介護費 24,600円/月

「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(6) 本人の希望に応じ、里帰り希望者には個別対応を行うこと

●岡山県出身者への訪問

- 7月 5日 長島愛生園、邑久光明園
- 7月18日 多摩全生園、神山復生病院
- 8月 2日 菊池恵楓園

訪問時に、見舞金と里帰り助成金を贈呈し、近況や県への要望、里帰りの予定など伺った。県人会の方の高齢化に伴い、年々、面談が難しくなっている。

入所者訪問時の状況

- ・長島愛生園 16名
 - ・邑久光明園 2名
 - ・多摩全生園 2名
 - ・神山復生病院 1名
 - ・菊池恵楓園 1名
- 夏祭りが近いこともあり、海から打ち上げられる花火の話などで盛り上がった。光明園については、体力面の問題などからお会いすることができなかった。
- 後遺症や持病などはあるが、お元気な様子であった。お二人とも24年度中に知人を頼って里帰りをされた時の様子を話して下さった。
- 愛生園の状況や将来構想などを聞かれ、研修会の際に撮影した写真などを差し上げて、現況を説明した。
- 病棟に入院中であり、呼びかけに対して反応はされるが不明瞭で、意思の疎通は難しい状況であった。

●意向を伺い、個別案件ごとに対応

里帰り、墓参りへの支援等について個別案件ごとに対応

3 両園保有史料の保全策に関する国への要望の実施

●史料の保全に関する要望

平成25年度重点要望

内容: 将来構想の実現に向け、全力で取り組むこと。
ハンセン病療養所が保有する歴史的建造物や過去の貴重な文献等の資料を保全し、普及啓発に活用すること。

4 今後体制を整えた上で、さらに行う取り組み

- (1)ハンセン病療養所入所者に対する聞き取り調査の実施
自治会及び園当局の協力を得て、聞き取り調査を実施し、了解が得られる方の聞き取り調査結果については、啓発資料として活用すること

- 小冊子への体験談の掲載
通年 入所者の体験談を掲載した小冊子を、語り部講演会、学校等での人権学習に活用

掲載して活用中
H25配付部数 旧版約 1,000 部、新版 5,700 部(3月現在)

配付先(主なもの)
入所者による語り部講演会実施校、問い合わせのあった団体、公民館、教育委員会など

- (2)関連資料・史料の収集・蓄積
広く県民に対して関連資料の提供を呼びかけるとともに、歴史研究者の協力を得て、岡山県及び市町村保存資料等の調査・研究を進め、偏見・差別解消に向けた取組みの一環として、これらの調査・研究を通じて明らかにされる事実を題材として、県民に対する啓発を行うこと

- 資料集刊行、収集した史料の保存・公開

通年 平成20年度までに刊行した資料集制作の際等に収集した史料を、平成21年度末に県立記録資料館へ引き継ぎ済。

県立記録資料会において、史料の公開に向けて、引き続き準備中。
なお、史料開示の相談があった場合は、個別案件ごとに対応している。

(注1)平成14年3月20日「岡山県のハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」から提出された意見書における提言

(注2)●健康推進課の実施事業